

第25回高知女子大学看護学会報告

「看護倫理を考える」

－看護実践における倫理的判断能力を高めるために－

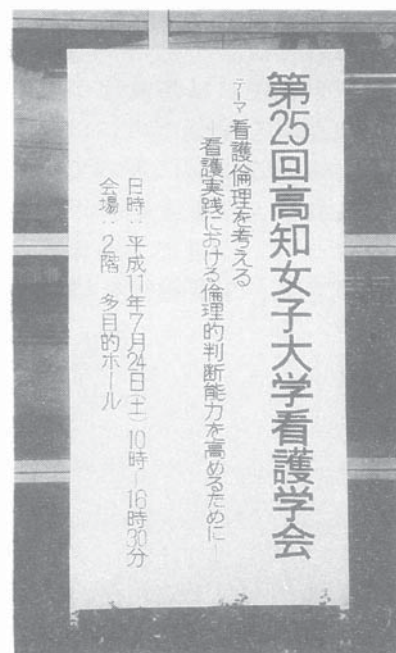
鈴木 志津枝*

看護実践における倫理的判断能力を高め、対象者の人権や権利の擁護者としての立場で看護を実践していくための視点を学ぶ機会の提供を目的として、第25回高知女子大学看護学会が「看護倫理を考える－看護実践における倫理的判断能力を高めるために－」をメインテーマに、平成11年7月24日(土)に、高知県ふくし交流プラザにて開催された。本学会に、学会員、準会員、一般参加者を含め、248名の看護職者及び看護学生が参加した。

本学会のプログラムは、午前10時から山崎智子学会長の挨拶に始まり、元高知女子大学学長の池川順子氏の来賓挨拶の後、二人の講師による講演会と、講演の内容をさらに深めていくために、追加発言と質疑応答の時間がもたれた。

講演会では、広島大学医学部保健学科教授である横尾京子氏が「看護実践における倫理的課題と判断の視点」を、また横浜市立市民病院オンコロジー専門看護婦である小迫富美恵氏が「看護ケアの場面で遭遇する倫理的問題とジレンマへの対応」をテーマとして、倫理の原則から看護実践での倫理的問題に対する対応方法までを繋げて、わかりやすく話された。さらに、質疑応答・追加発言時には、参加者より、①スタッフ間での情報交換と個

人のプライバシーとの問題、②事例を分析する上での倫理的問題を見出す視点、③胎児はいつから子として尊重されるのか、④看護者が代理人として、どのように障害をもった子どもの立場に立っていくかという質問があり、二人の講師より含蓄のある考えが述べられた(詳細については講演内容要約、質疑応答・追加発言要約を参照されたい)。



高知女子大学看護学会開催

学会長挨拶

高知女子大学看護学会と高知女子大学看護学部のさらなる発展に向けて

山崎智子学会長より、第23回高知女子大学看護学会総会で承認された学会員枠の拡大、奨学金制度の実施、高知女子大学学会誌の発

行も学会員の協力のもとに順調に歩んでいることや、これらの改革を通して学会が徐々に充実しつつあることに対し感謝の言葉が述べ

*第25回高知女子大学看護学会企画委員長

られた。

また、念願であった高知女子大学大学院修士課程も2年目を迎え徐々に充実してきたことや、編入生の受け入れ準備を進めていること、博士課程の設置に向けて検討段階に入っていること等をあげ、卒業生や地域方々の期待に応える大学として、さらなる発展を切望する思いが語られた。



学会長挨拶

来賓挨拶

高知女子大学看護学会の将来に対して望むこと

元高知女子大学学長である池川順子氏は、高知女子大学看護学部と高知女子大学看護学会の歩みをつぶさに見つめて来られた経験から、本学会開催に対し、また現在までの看護学部と看護学会の発展と充実に対し、喜びの言葉を述べられた。

池川氏は、21世紀には高齢化が進む中で、人々は人間の尊厳を保つためにはどうするかということを求める時期に入っていくことを話され、高知女子大学看護学会が、今後も人間の尊厳を保つという視点で蓄積を深めていくことを希望され、来賓挨拶を結ばれた。



来賓挨拶